

延岡市下水道広域化推進総合事業（妙田下水処理場と衛生センターの統廃合）に関する意見及び本市の考え方

	意見の概要	本市の考え方
1	老朽化した公共施設の更新に合わせて今回の様な統廃合を検討してコスト削減を図ることは大切なことだと思います。	今後も統廃合が可能な施設につきましては、統廃合によるコスト縮減策に取り組んでまいります。
2	コスト面のメリットについて建設費の比較が出ているが、3.5億の建設費の差について、もう少し丁寧な説明が欲しい。(単に統合化メリットとの表現でなく、具体的な説明が必要)	汚泥共同処理施設の整備により、衛生センターの消化タンクを廃止することが可能になり、改築更新費用の約6.0億円が不要になります。また一方で、下水汚泥とし尿・浄化槽汚泥の性状を均一化するため、新たに建設する汚泥混合槽等に約2.5億円が必要になり、差し引き3.5億円の建設費が削減できると試算しています。
3	コスト面のメリットについて、維持管理費の比較が出ていますが、この差は誤差範囲だと思います。今後の延岡市の人口減少を考え、維持管理費がもっと下がる方法も検討する必要があると思います。この場合、建設費と維持管理費を比較して結論を出して欲しい。	今回、お示ししておりますコスト面のメリットにつきましては、衛生センターの消化タンク廃止と汚泥共同処理施設の新設整備によって年平均の維持管理費が約100万円縮減できると試算しております。 今後、縮減額につきましてはさらに検討してまいります。今回の汚泥共同処理施設整備での維持管理費の縮減傾向は変わらないと考えておりますので、現在の計画に沿って事業を進めてまいりたいと考えております。
4	下水道業務継続計画は、平成28年に改訂されている。その計画の中で、妙田処理場は、被害想定で建物は耐震基準を満足しておらず、海岸に近いので津波被害があるとしています。また、「延岡市国土強靱化計画」では、下水道業務継続計画の基で下水道施設の戦略的維持管理の必要性を進める事にしています。今回の計画は、業務の統合で効率化が図られて、経費削減ができます。そこで、南海トラフ地震への備えと含めた下水処理場の設備再構築の計画を市民に提示して、設備更新・地震津波対策の優先順位の考え方を公表してください。具体的には、経費削減効率化を優先するか、地震津波対策を優先するか、などです。	今回の事業は、妙田下水処理場と衛生センターの汚泥処理施設について統廃合により経費節減を図るものですが、妙田下水処理場は南海トラフ地震による津波浸水被害も想定されていますので、市のホームページでお示ししています「延岡市下水道総合地震対策計画」に基づき、人命保護と被災時でも必要とされている電源を確保するため、建物への出入りを津波の想定浸水高より高い位置に設けた電気棟を建設し、津波浸水対策を実施したところです。 また、本計画に基づいて今年度は隣接するポンプ棟の耐震補強、来年度以降に津波により浸水が発生しても運転が可能となる冠水型ポンプに更新することも計画しており、経費削減効率化を図りながら並行して地震・津波、浸水対策を行っているところです。